

神奈川施保連ニュース



発行人 神奈川県知的障害者施設保護者会連合会 会長 大矢 武久
編集同上広報部会 HP:<http://w01.tp1.jp/~a368318200/>
発行所同上事務局 〒224-0032 横浜市保土ヶ谷区法泉1-18-4-3 大矢 武久

「施設見学会報告」 社会福祉法人 白根学園

平成30年10月12日(金) 午後社会福祉法人白根学園の「障害者支援施設・光の丘」「福祉型障害児支援施設・ぶどうの実」「社会就労センター・しらね」の3施設を訪問した。

白根学園は昭和35年三木信之先生の「知識より、信仰より、愛を以て第一となす」の基本理念のもと、知的障害児施設として設立されたが、現在は、知的障害のある子供から高齢者まで、幅広く受け入れている。はじめに職員学園長から、法人の長い歴史と各種事業についての説明ならびに施設紹介があり、その後、参加者30名が3班に分かれ施設見学を行った。

(1) 障害者支援施設・光の丘

★施設入所(40名)、短期入所(10名)、生活介護(80名)、グループホーム
平成26年に施設整備を行い建て替えた。当時の入所者は80名であったが、整備後は40名と半数になった。40名はグループホームで対応した。
●1階にはスタッフルーム、法人事務局、地域の方も利用でき、喫茶コーナーを設けてあり、地域交流の場になっている。
●2階は、自立課題のためのパズル、コースター等の作業場がある。
各エリアは両面棚(横4個×縦3個)約20個と仕切り版で仕切られている。
●3階は集会所「つつし」、地域交流室「あさがお」、相談室が設置されている。
●4階は、展望食堂と屋上庭園

(2) 福祉型障害児入所施設

●居住棟は3階建てで、各階2ユニット(1ユニット10室10名)であるが、玄関は1つ。全て電子キーで開閉される。
玄関を入ると正面がスタッフルームになっており、2つのユニットは廊下でつながっている。居室はベッド、タンス2個にエアコンなどが設置されている。ベランダもあり洗濯物が干せる。他のユニットも同様のようであった。
★児童発達支援事業・放課後デイサービスも行っている。
★児童入所施設(30名)
様々な事情により施設入所に至ったお子さんに対し、家庭に代わる安全・健康な生活を提供



★短期入所「4名」、日中一時支援「昨年度295日」
家族のレスパイトなどの目的で、在宅の障害があるお子さんが利用できるサービス。

1階：2ユニット
★「すこやか」…自閉症および行動障害児用(8室・男子9名)、「かがやき」…障害児用(9室・男子9名)
●支援室から、カメラモニター・コントローラーで、電源、水道、シャッター、窓の開閉などをコントロール出来る。
●「すこやか」は個室で床はクッションフロアで水洗いが出来る。

(3) 社会就労センターしらね

1階：クリーニング工場(20名)
大型の洗濯乾燥機5台とプレス機が配置された工場。
某洗濯会社の下請けでクリーニング事業をしている。
ハンディタオルの洗濯と梱包作業のほか、パソコンの解体、アルミ剥がし作業などが行われていた。
作業は月曜日～金曜日だが利用者のペースに合わせてるようにしている。
2階：縫製製品作成他(20名)
フロアの半分が作業場、半分が40名利用可能な食堂になっている。
なお、この食堂は集会場にも利用されている。
作業場ではボールペンの組み立て、刺繍タオルの作成、ビーズ製品作りなどといった多種多様な作業をしていた。
縫製製品はカードケース、刺繍ガーゼタオル等で、刺繍の下絵は職員が作成している。
以上

天井が高く、照明・エアコンなどは埋め込みになっている。
2階：2ユニット
★「はぐくみ」(男子8名)、「きらめき」(女子8名)
フロアーレイアウトは、1階「かがやき」とほぼ同様。
3階：多目的ホール
天井も高く、利用者の遊び場所、職員の研修会場などとして使用。

リレー投稿

すぎな家族の会のご紹介

すぎな家族の会 会長 榎本 隆

社会福祉法人すぎな会は、昭和37年に障害を持つ子の親たちが集まって都内で設立され、翌38年に現在の厚木市の郊外に移転しました。利用者23名で始まった施設は、現在入所、通所、生活ホームの全利用者でおよそ230名となっております。

そもそもの成り立ちが、親たちが自主的に立ち上げた施設であることから、家族の会の活動も非常に活発でありました。

私の母も15年前頃には家族の会の副会長を務めており、忙しく活動に従事していたことを記憶しています。ところが、多分に漏れず高齢化の波はすぎなにもおよび家族の会の会員も、ご両親から兄弟姉妹へとその軸足が変わってきています。

親たちの想いを引き継ぎ、利用者のための活動をどう活性化させていくかが課題となっております。



家族の会の会長として2年目を迎えた本年度からは、会員にとって身近な課題である「親亡き後」にテーマを絞って、四半期ごとに勉強会や講演会を開催

するよう努めています。6月には、神奈川県福祉連でも講演された行政書士の渡部伸さんに「親ある間の準備」と題して講演会を開催しました。

8月は、元家族の会会長である嶋田さんに「社会保障制度の動向と高齢者の生き方」の講演会。現在10月開催を目指して、石飛幸三先生をお招きして「知的障害者施設における平穏死とは」（仮題）をテーマに講演会を準備しているところです。

いずれの講演会もすぎな会の法人・施設の幹部・職員の皆さんに声をかけ、一緒に勉強し意見交換を行うように心がけています。講演後の懇話では、小グループに分けて意見交換を行い、そのグループに講師がひとつひとつ回ることで、大勢の前ではなかなか発言できないような質問も活発に行われ、会員相互の理解も深まるように努めています。そのほか、遠距離にお住まいであったり、高齢のため勉強会に参加できない会員のために「四半期ごとに「すぎな家族の会だより」を発行しています。上記のような講演会・勉強会の内容や、すぎな会の近況などについて、お知らせしています。

障害を持つ人たちが病気になったとき、ケガをしたときに備えて

神奈川施保連では、知的障害児者や自閉症児者が病気やケガをした時、また、そのために入院した時などに備え、「やまゆり知的障害児者生活サポート協会」の運営に参加しています。加入資格、その他の詳細は、下記までお問い合わせ下さい。

一般財団法人やまゆり知的障害児者生活サポート協会
〒221-0844 横浜市神奈川区沢渡4-2 神奈川県社会福祉会館内
TEL:045-314-7716 FAX045-324-0426

て、お知らせしています。諸先輩から受け継ぎ、8月号で第70号となりました。今後とも、家族、利用者の身近な課題・問題に焦点を当てて、その解決の方向性について皆で考え、支え合える家族の会にしていければと思います。